

広がる地域の輪

～おらほの地域はおらほでつくる～

地域住民が中心となった地域づくりが進んでいます

「まちづくりセンターとは

地域の舵取り役として事業の運営など地域づくりの拠点となる施設。以前は町が運営する公民館でしたが、少子高齢化と人口減少が今後更に厳しさを増す中で、真に必要な行政サービスを維持し続けるためにまちづくりセンターへ移行しました。令和4年度より余目第一、第三まちづくりセンター（余目第四まちづくりセンターは平成29年度から）、狩川まちづくりセンターが、令和6年度より清川、立谷沢まちづくりセンターに指定管理者制度が導入され、各学区・地区の地域運営組織がその運営を担っています。公民館は営利活動などに対する利用制限がありましたが、コミセン化によって地域課題への対応や、幅広い活動が可能となりました。

現在、7つの学区・地区のまちづくりセンターでは、それぞれの特色を活かしながら地域住民が中心となり、住民主体で地域の活性化や地域福祉の充実、地域の困りごとなどの解決に取り組んでいます。

本特集では、各まちづくりセンターが実施している事業の中から抜粋して紹介します。人々が一堂に集い、楽しく学び、縁を結ぶ、学びと地域づくりの場として、ぜひまちづくりセンターをご利用ください。

余目第四まちづくりセンター

運営組織：和合の里を創る会

支配人 高橋逸夫さん



地域づくりは、地域のみなさんが主人公です。事業に必要な情報を調査し提供します。

生涯学習事業は、参加されたみなさんが①トクする。②タメになる。③楽しめる。を追求し、また参加したくなる事業を追求します。

／おらほの／
イチオシ！事業

和合の里を創る会には、5つの部会があり、それぞれ目標を掲げ活動をしています。

- ①ひとり一人が地域に愛着の持てる和合の里
 - ・和合の里新春懇談会・地域情報誌「和合」の発行
 - ・広域避難所の設置運営、訓練および研修会の実施
 - ・自治会などリーダー研修会
- ②地域の支え合いで楽しく暮らす和合の里
 - ・便利屋「わごう」・クリーンデイの実施
 - ・移動支援車「和合号」の運行
- ③地域資源を活かしてみながうるおう和合の里
 - ・阿部亀治記念和合の里フォトコンテスト
 - ・亀治の背負いあげの会・由右エ門ほうきづくり
- ④みんながつながる交流の場をつくります
 - ・和合の里運動会・和合の里秋まつり
 - ・和合の里グラウンドゴルフ大会
- ⑤子どもから高齢者まで共に学ぶ和合の里
 - ・あいさつ声掛け運動の推進
 - ・地域啓発標語の募集・和合の里合同七つ祝い
 - ・和合大学院「悠遊塾」・和合歴史民俗塾
 - ・放課後子ども教室「わごうの広場」
 - ・和合の里あるき健康ウォーキング2024

余目第三まちづくりセンター

運営組織：菁莪のまちづくり運営協議会

事務局長 阿部政樹さん



事務局長2年目となりました。「菁莪」は歴史があり、人を思いやる人材が豊富なため「俊才」を生みやすいものと思います。地域づくりは人づくり、自らの地域は自ら行動を起こし実践する。そのような人材を育成したいです。地域のみなさんが気軽に参加できる事業を開催し、地域コミュニティを強く形成できるように努力していきます。

／おらほの／
イチオシ！事業

「地域ビジョン」の進行状況について報告します。

自治産業部会は「未来へつなぐ安心・安全な菁莪の地」と題し、地域交流、防災、地域イベントなどを開催します。8月には防災研修会を初開催しました。

環境衛生部会は「住みやすい環境でいきいきとした地域づくり」をテーマとした、環境美化、花いっぱい運動リサイクルを推進していきます。

福祉部会は「誰ひとり孤立させない菁莪のまち」を掲げ、課題は多いものの今年度はボランティアスタッフのあり方について協議していきます。

教育交流部会は「みんなで学び共に創る生きがいがづくり」を念頭に、青少年事業、高齢者の見分を高める事業、地域交流事業など、従来どおりの幅広い活動を実施し、パソコンの館としてパソコン講座は継続していきます。

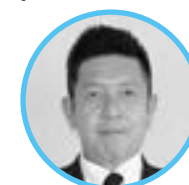


防災研修会

余目第二まちづくりセンター

運営組織：第二学区まちづくり振興協議会

事務局長 小林重和さん



「創造の館」として特色のある施設機能を活かした創作活動、社会教育および生涯学習の拠点として事業や活動を継承し、地域の茶の間として気軽に立ち寄られるような雰囲気作りに努め、施設運営をスタッフ全員、全力で取り組んでいます。

／おらほの／
イチオシ！事業

第二学区の基本目標「みんな活き活き笑顔あふれる創造と思いやりの地域づくり」の実現に向けて、冬企画「ホットでほっとな冬あそび」、夏企画「WAになっておどろう！～第二まちセン夏まつり～」を開催しました。コンセプトは「地域の結びつきや老若男女が皆で楽しめる世代交流の場」とし、誰でも気軽に参加したくなる魅力的な活動の取組みとして位置づけ、楽しさと地域の賑わいに特化した事業として展開しました。夏まつりの盆踊りは、小学生から高齢者まで、会場に組まれた太鼓櫓を囲んで、輪になり踊り大盛況となりました。次回開催を楽しみにしているとの声も多く、第二学区の名物として定着させると共に事業の拡大を図りたいです。



第二まちセン夏まつり

余目第一まちづくりセンター

運営組織：18ネットワーク

事務局長 河村清男さん



18交流レク大会で様々な年代の住民が集い地域コミュニティの醸成を図ることができました。

今後、地域コミュニティ化を進めて行くうえで、協力者（担い手）の世代交代が課題です。担い手育成のため地域との関わりを持って事業を進める舵取り役のリーダーシップが必要です。

／おらほの／
イチオシ！事業

令和4年5月に行ったまちづくり住民アンケートでは「運動会・レク大会」が重要度、満足度ともに低い結果でしたが「交流の場として半日位なら運動会をやってもいいのではないか」との意見、要望などをいただきました。

集落対抗も残しながらレクリエーション主体の種目を取り入れて出場要件を緩和し、みんなが参加しやすい大会になるよう工夫。小学生から「僕が中学生になったらお兄ちゃんたちのように、18交流レク大会に協力したい」、集落からは「レク大会はやって良かった。反省会も楽しかった」と感想をいただきました。

今後も地域のみなさんのご意見を大切にしながら運営していきます。



18交流レク大会

町民一人ひとりが参加を

「地域運営組織」という言葉を耳にしたことはあるでしょうか。

少子高齢化による人口減少は、日本にとって避けることができない未来です。成果がでるまでは大変な時間を要しますが、それでも人口減少対策を講じていくことが重要です。

対策は、町民も議会も行政も全町あげて取り組む必要があります。7つの地域運営組織は、地域ビジョンを策定し、それぞれが目指すべき将来像を描きました。工夫を重ね、新たな取り組みに一生懸命挑戦しています。今までと同じではないので、かなりのエネルギーが必要です。

町民一人ひとりが自分事として「自分には何ができるか」という意識で、参加することが求められています。自分たちの地域をみんなで守り、育てていきましょう。



立谷沢まちづくりセンター

運営組織：清流の里立谷沢

事務局長 菅原一彰さん



「来てみたら立谷沢良い所ですね」とよく言われますが、「今日は立谷沢に行ってみよう」と思ってもらえるような仕組みづくりと、地域の方たちが共助と結の精神により、安心して楽しく暮らせる方策を考えていきます。

／おらほの／
イチオシ！事業

「立谷沢さあべ「タチあべ」～ハマる！田んぼ体験～」は、人口減少が続く立谷沢地区で交流人口を増やすことなどを目的に、令和元年に地域おこし協力隊と地域の有志が始めたもの。昨年から立谷沢まちづくりセンターが中心となり、今年で4回目となりました。立谷沢川流域の休耕田を活用し、米づくりについて地域の方から学び休耕田に入って田植え体験、泥んこになりながら田んぼでソリ引きレース、バレーボールなどを行うなど、普段できない体験を味わっていただきました。また立谷沢川流域産の3種類の米「つや姫」「雪若丸」「ササニシキ」の銘柄当てなど、立谷沢産の米の良さも併せてPRしました。



タチあべ

清川まちづくりセンター

運営組織：清川地区振興協議会

事務局長 小倉慶久さん



4月から指定管理者制度が導入され、清川地区振興協議会が委託を受けました。何もわからないところから、無我夢中で推進してきました。今年は事業三部会のみなさまより多大なる協力をいただきながら事業をこなすという現状ですが、地域の人々が主体的に参画、運営し、地域づくりの拠点としての役割を果たしていきたいです。

／おらほの／
イチオシ！事業

清川まつりを盛り上げるためのプレ企画「夏まつりIN清川」を企画しました。ビアガーデンと屋台、こどもお楽しみコーナー、目玉企画の「プロジェクションマッピング」を見ながら飲食を楽しむ。普段見かけない人も大勢集まり、109人もの人が夏の夜を満喫しました。

これまでの御殿林散策路整備に加え、きよかわ観光ガイドの会の観光コースとなっている歴史的文化遗产の環境保全活動を地区のみなさんにご協力いただき、地域総ぐるみで実施。5月は39人、10月は65人が参加し、散策しやすい環境を整えました。

11月2日の防災運動会は、楽しみながら学び、災害時に備えることを目的としており、老若男女問わずに参加できる運動会です。



環境整備事業

狩川まちづくりセンター

運営組織：風来風流の会

事務局長 齋藤渉さん



少子高齢化が著しく、活気がなくなりつつある昨今、賑わいづくりの拠点として施設の活用を図っていきたいと思います。今年度ミニホールの音響設備も充実し、カフェ厨房やラウンジなどと併せ、使い方は無限大？楽しい提案をお待ちしています。

／おらほの／
イチオシ！事業

昨年7月にリニューアルオープンした「立川複合拠点施設」。1階ラウンジを有効活用した「からふる直売所」の無料開放、カフェ厨房を活用した飲食物の提供など、地域の賑わいづくりのために地域内外のみなさんが出店しています。最近はおいしいもの目当てに出店待ちする方が現れるなど、新たな賑わいがみられます。カフェ厨房では同級会をする人もいて、安くて快適と評判も上々。いろいろな使い方ができそうです。

建物内部は「ちょっとおしゃれな庄内町の代官山」と評する人もいる一方、外観はいかんせん元の庁舎のままなので敷居が高いという方も。

出店、営業スケジュールについてはHPなどで確認できますので「庄内町の代官山」に一度足を運んでみてはいかがでしょうか？



カフェ厨房

「おらほのイチオシ！」 地域づくり事業 事例発表会

9月21日、町内のまちづくりセンターの関係者ら55人が役場に集いました。日頃から地域活動に携わっている方々を対象に、より詳しく地域活動について知ってもらうことや、お互いの連携、協力関係の構築を図ることを目的に開催されました。

最初に各まちづくりセンターの代表により、7分間の持ち時間で、各々のイチオシ事業が発表されました。それぞれが力を入れたり、工夫を凝らして活動している事例が発表され、その熱い思いに大きな拍手が送られていました。ほかのまちづくりセンターの活動が刺激となり、改めて持続可能な地域づくりについて考えるきっかけとなりました。

事例発表の後は、川北秀人氏（IHOE人と組織と地球のための国際研究所代表）を講師に招き、急速に進む少子高齢化に備えた地域づくり

のあり方について講演いただきました。川北さんは「主力として地域づくりを支える年齢層は減少し続けるのに対し、お世話される側に回る85歳以上はまだまだ増え続ける。地域づくりの主役の担い手となる年齢層の負担を、今から減らしていかなければならない」と地域活動を担うみなさんに対しアドバイスをされました。

